



地域の夢

栃尾地域

「新市地域らしさ価値」を高めるための栃尾地域の方針と活動

栃尾地域は、こんなところ

■栃尾市の成り立ち

栃尾市は新潟県のほぼ中央に位置し、名峰守門岳の豊かな自然に抱かれた源流の里です。守門岳西面に源を発する刈谷田川、塩谷川、西谷川の3本の川が谷を刻み、その流域に町や集落が点在しており、刈谷田川と西谷川の合流地点の平地に市街地が広がります。山々から流れ出る豊かな清流に育まれて発展してきました。



栃尾地域の方針と活動 (右頁参照)

栃尾地域において「新市地域らしさ価値」を高めていくための方向性と、活用したい地域資源（地域の強み）から検討した、将来実現すべき地域の姿（整備・活動方針）と実現のための活動・展開を提示します。

■織物の町

栃尾の織物の歴史は古く、第11代の垂仁天皇の皇子が栃尾郷高志の国造となり、その妃が守門の天然繭から紬を織ったのが始まりといわれています。元和年間、栃尾郷を治めていた長岡藩が天明の大飢饉に稲作以外の産業の振興を痛感し、発展策を講じてから織物産地としての名が全国に広がりました。

江戸時代中期の縞紬の生産により、全国的な市場を確保するようになり、農村の家内工業で始まった栃尾織物も明治後期には電気を利用した工場生産に移行。昭和5年の昭和大恐慌を期に縞紬から白生地縮緬の生産に転換。撚糸加工による「よこしば縮緬」の生産で全国に、名を馳せました。

刈谷田川流域の歴史は古く、市内には縄文時代の遺跡が数多く存在しています。

戦国時代には長尾氏の有力な城下のひとつとなり、上杉謙信が旗揚げした栃尾城の城下町として発展。ちなみに謙信は14歳から19歳まで栃尾城に在城しました。謙信の遺徳を偲び、毎年9月には「謙信公祭」が開かれます。



整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

栃尾地域において

独創企業が生まれ育つ都市

～誠実さが生み出す「技」立国・新ながおか～

を高める方向性

- ・繊維産業アクションプラン（製造～販売力強化）の具現化と、県工業技術総合研究所素材応用技術支援センター、（財）にいがた産業創造機構、長岡造形大学等との連携による、新素材、新技術の開発及びデザイン力向上等を推進することで、確かな伝統技術に支えられた新産業を創出していく

—実現すべき栃尾の姿— WILL

■栃尾地域整備・活動方針

繊維産業を核とし、 素材からこだわる多分野の 栃尾ブランドづくり

- ・繊維工業技術の幅広い活用と、きれいな水と空気を活かした新世代産業の創出地となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 繊維産業の製造から販売力強化への取り組みによる産業振興
- 研究機関と連動した、新素材・新技術の開発とデザイン力の向上

発信する

- 広域的なアンテナショップの展開
- 開発・研究に適した立地環境のPR促進活動

育てる

- 地域内の高校での繊維関連カリキュラムの継続による、技術者の育成

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

繊維産業と熟練技術

- ・産地として培われてきた染め織りの技術があるとともに、ガラス繊維による耐火服・飛行機の構造材・マルチメディア用素材など、新技術・新素材への展開がされている

きれいな水と空気

- ・きれいな水と澄んだ空気、自然豊かで静かな環境を求める研究機関の進出が見られる

繊維技術習得の場

- ・栃尾高校での繊維関連カリキュラムが継続されており、地域内での人材育成の基礎がある



整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

栃尾地域において

元気に満ちた米産地

～まごころ米の生まれる里・新ながおか～

を高める方向性

- ・地域産原料の利用による、既存特産品の更なる品質向上と、自然イメージの素材活用による新たな食づくりの展開

—実現すべき栃尾の姿— WILL

■栃尾地域整備・活動方針

自然に培われた確かな素材 による、「新ながおか名物」 を生み発信する

- ・自然を活かした新たな「食」をつくり広げる地域となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 新ながおか産大豆を用いた、地場産あぶらげづくり
- 源流の里のきれいな水からつくる、食味の良い「とちお米」づくり

発信する

- 地域内拠点活用による「とちお野菜」の販売ネットワーク強化
- アンテナショップ展開による“とちお食材”のPR強化

育てる

- あぶらげ料理コンテスト等の促進による、新たな食文化の育成
- 専門研究機関と連携した、既存特産品(あぶらげ、酒、米)のさらなる品質追求

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

物語のある特産品

- あぶらげ、もち（梅三郎、ほか）
- ・全国的に知名度の高い「あぶらげ」究極の味としてメディアに取り上げられた「もち」など、地域の食文化を発信する素材がある

源流が育む産物

- 名水、とちお米、酒
- ・自然資源である「源流」のイメージを活用した、存在感のある水・酒・米がある

農業の新たな試み

- 有機肥料づくり
- ・おからを使った有機肥料づくりを展開、イメージがよく、ガーデニング等からのニーズが高い

3 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

栃尾地域において

世代がつながる安住都市

～未来人を育む資源博物館・新ながおか～

を高める方向性

- ・まち並みや自然・伝統・地域コミュニティを守り続けることで、人に優しい世代間交流が続く安らぎ空間を育む

—実現すべき栃尾の姿— WILL

■栃尾地域整備・活動方針

活発な町内コミュニティと「互いを思いやる心」を伝え、元気でやさしい人を育む地域

- ・まつりや交流を通じた地域コミュニティを守りつづけ、伝統・文化・人情を大切に思う未来人を育てる

実現していくための活動・展開

見極める

- 古くから地域に伝わる神楽舞など伝統芸能の継承、武道・スポーツ指導を通じた世代間交流の推進

発信する

- 城山・秋葉公園・雁木通りを楽しんで歩ける地域ぐるみの「謙信の里」づくりとPR

育てる

- 地域の人々が寄り集まる「よったかり」の場づくりと、地域住民の一体感醸成

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

雁木のまち並みと雄大な自然

- ・ふるさとを強烈に印象づける、人に優しい雁木のまち並みと、自然（守門岳～源流）がある

教育と町内コミュニティ

- ・子供自身の興味・動機を大切に、総合学習への取り組みと、地域コミュニティ支援の継続
- ・武道、スポーツ、芸術文化を、大人たちが子供に伝える地域性を有する。
- ・まちづくりへの市民参加が根強い

住民の強いつながり

- ・区長制度により培われてきた、地域住民の一体感

4 整備・活動方針と活動展開

—新市全体のありたい姿— WANT

栃尾地域において

世界をつなぐ和らぎ交流都市

～「人」「ものがたり」「競和国」・新ながおか～

を高める方向性

- ・地域のPR強化、市民ネットワークの広がりにより、観光産業の発展を実現する

—実現すべき栃尾の姿— WILL

■栃尾地域整備・活動方針

「来て・観て・食べて」楽しいテーマ型観光の拠点を育てる

- ・固有の資源と住民ネットワークを活用した新ながおかの観光・交流拠点となる

実現していくための活動・展開

見極める

- 自然・文化(歴史・食など)資源を結び、わかりやすい観光ルート(ストーリー)づくりと、案内機能の強化
- 観光拠点を活用した体験型メニュー(雪国のくらし・イベント等)の開発

発信する

- 地域で受け継がれる伝統芸能(神楽舞・廣大寺踊り)の集中公演の開催による地域魅力の発信
- アンテナショップ展開による観光・イベント情報の発信
- 雪と関わりの深い行事やスキー場等を活用した雪国の魅力の情報発信

育てる

- 観光ボランティアガイドの養成
- 既存ルートを活用した、地域外(他県等)交流の促進

—活用したい地域資源— CAN

資源の強み・内容

豊富な観光資源

- 道の駅、謙信の里、道院高原、杜々の森、守門岳、まつり・イベント、雪
- ・自然・歴史・文化に特化した、観光資源、固有のまつりが集積しており、幅広い層にアピールできる伝統的観光地としての発展が可能

住民ネットワーク

- フォーラム21、観光ボランティアガイド
- ・まちづくり・イベント等を市民レベルで具現化するネットワークを有しており、市民の手によるあたたかな交流ができる

交流拠点

- 道の駅、栃尾ふるさと交流会館
- ・100人規模の子供たちの滞在场、街道まつり等の広域イベント拠点が、更なる交流機会の拡大が可能

観光産業の芽

- ・炭工房・竹細工・特産品づくり等、観光産業に新たな魅力を付加する起業が成長しつつある

もっと詳しく地域のか

栃尾地域

環境庁の名水百選に選定された杜々の森湧水をはじめ、各所に数え切れない湧水がある栃尾市は豊富な水資源と、伝統の織物で繊維産業のまちとして発展してきました。今、新たな時代を迎え、伝統産業で培われた技術力をもとに新産業の創設を目指しています。また、自然環境を活かした住空間の創設、テーマ型観光推進による交流人口の増加により、「住みたくなるまち、行きたくなるまち」を目指します。

■観光資源の宝庫

栃尾は杜々の森、守門岳、道院高原、謙信の里、道の駅など自然、歴史、文化などの観光資源が多数あります。また、獅子舞が1月2日に厄払いに各家庭を巡る葎谷の岩戸舞、2月の巢守神社の裸押合大祭、諏訪神社の春季例大祭の大名行列、7月の秋葉の火祭りなど、固有の祭りが数多くあり、幅広い年代にアピールできる伝統的観光地の要素を持った地域です。

さらに交通の拠点となる「道の駅 R290 とちお」では竹細工、栃尾てまりなどの特産品づくりが体験でき、観光産業に新たな魅力を付加できる起業が成長しつつあります。

また、栃尾市に縁のある人物として、天文12（1544）年に栃尾城に入城・旗揚げをし、6年間にわたり栃尾城に在城した長尾景虎（後の上杉謙信公）、阪神電鉄の初代社長や現在のアサヒビール、各種銀行の創立にも深く関わった栃尾市出身の実業家、外山脩造氏などが挙げられます。

今後はこれらの観光資源を結ぶストーリー性のある観光ルート作り、観光ボランティアガイドの養成に努め、住民ネットワークで観光の拠点を目指します。



■日本二百名山に数えられる中越の名峰・守門岳

守門岳は袴岳、青雲、大岳の三連山で、大岳の頂上には守門大明神が祀られ、登山口のひとつ栃堀には本殿巢守神社があり、上杉謙信が信仰したといわれる毘沙門天が祭られている。登山道のブナ林と眼下に越後平野、遠くに佐渡島を望む山頂の眺望は圧巻。また、大岳と袴岳の間、数百メートルの雪庇は東洋一といわれる。



■雁木の街並み

栃尾市に残る雁木は総延長4.3km。日本で3番目の長さで、豪雪地帯・栃尾の名物になっている。雁木の残る表町地区では1998年から「雁木を生かしたまちづくり」活動を展開している。



■あぶらげ

250年の伝統を持つ栃尾名物ジャンボあぶらげ。長さ20~22cm、幅6~8cm、厚さ3cmと普通の油揚げの3倍の大きさ。市内に約20軒ほどのあぶらげ屋がある。毎年10月には「あぶらげまつり」を開催している。



■ほだれ祭り

ほだれとは「穂垂れ」の意味で、農耕の実りを表す言葉。早春に行われる越後の奇祭として知られる。栃尾に嫁いで来た初嫁が神輿に乗った男根形の御神体にまたがり、それを男衆が担いで村を回り、五穀豊穡、子宝、安産などを願う。



■源流の里が産んだ芳醇な酒

四方を山に囲まれた雪深い地、豊かな清水、澄んだ空気という最高の環境で、上質な米から造られた栃尾の酒はすっきりとした淡麗辛口。酒品評会でも数々の栄誉に輝いている。